

02 現状と課題、将来予測

●経営比較分析表を活用した現状分析

＜経営の健全性・効率性＞

6年連続の経常赤字や料金回収率の低さ、流動比率低下や企業債依存の高さなど課題がある一方、施設利用率は高く運営効率は良好です。

＜老朽化の状況＞

管路の経年化率が他の類似団体及び全国平均よりも高くなっており、管路延長が長いことから
 今後はAIなど新技術を活用した効率的な更新を行
 う必要があります。

●水道事業を取り巻く環境

(1)給水人口・水需要の減少
給水人口は減少傾向が続き、令和17年度
(20
35年度)では約21万人と予測されています。
人口減少に伴い有収水量も減少するため、
料金収入の減少が見込まれます。

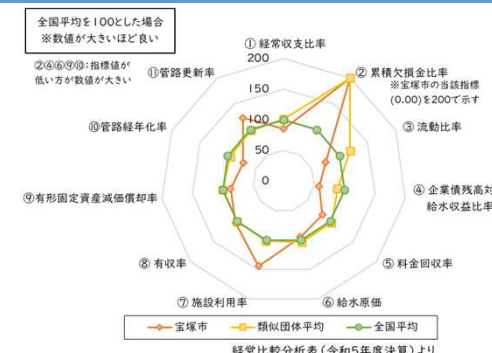
(2)物価の高騰
昨今の世界情勢や円安の影響により、建設資材、動力費、薬品費、労務費などの維持管理費や工事費用が上昇しており、今後も**物価高騰**が続く見込みです。

(3)金利の上昇
長年の超低金利政策の終了し、借入金利が上昇しています。これにより、従来の40年償還（5年据置）の企業債の借入方針では対応が難しくなっており、借入方針の見直しを行うなど、**急激な金利の上昇への対応**が必要です。

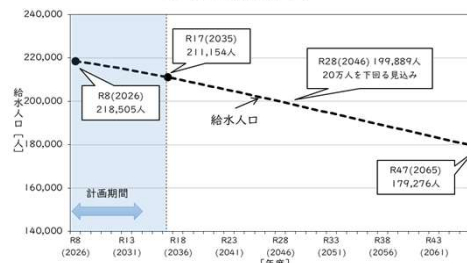
(4)更新需要
更新需要が増大する中、施設を適正な状態で維持するため、老朽化施設の更新は**緊急度や重要度に応じて優先順位を明確にして実施**することが必要です。

(5)自然災害の激甚化・頻発化
令和6年能登半島地震をはじめ、大規模地震や台風・集中豪雨などの自然災害が多発しており、**地域のインフラや市民生活への被害**、二次災害や広域停電など社会全体への大きな影響が懸念されます。

(6)水源水質の課題
川下川貯水池でアオコの大量発生による**かび臭**や、地下水で**PFAS(有機フッ素化合物)**の検出など、新たなリスク要因が水道水の水質に影響を与えており、今後も別のリスクが生じる可能性があります。



經營比較分析表



給水人口の推計



アセットマネジメントによる
更新需要の算定



令和6年能登半島地震
穴水町での応急復旧応援活動



宝塚市における水源
(R7.3.3|現在)

水源 ≪割合≫	ダム水(川下川貯水池) ≪21.9%≫、地下水 ≪20.0%≫ → 自己水 ≪41.9%≫ 兵庫県営水道からの受水 ≪26.8%≫、阪神水道企業団からの受水 ≪31.3%≫			
施設数	浄水場設置数	2	管路延長	導水管 16,522m
	配水池設置数	48		送水管 77,001m
	加圧所設置数	28		配水管 726,104m 合計 819,627m
施設能力	77,500㎥/日		施設利用率	85.96%

おひ 地域イン

二次災害や広域停電など社会全体への大きな影響が懸念されます。

公衆浴場用、臨時用については、それぞれ基本料金と単一従量料金を設定しています。

(6) 水源水質の課題

本市では、令和7年（2025年）5月1日現在、上下水道局全体で2部6課1室体制（水道事業会計の職員数76人（会計年度任用職員を除く。））で事業を運営しており、令和6年度（2024年度）に策定した「宝塚市上下水道局定員適正化計画」のもと、定員の適正化に努めています。

川下川貯水池でアオコの大量発生による**かび臭**や、地下水で**PFAS(有機フッ素化合物)**の検出など、新たなリスク要因が水道水の水質に影響を与えており、今後も別のリスクが生じる可能性があります。

二次元
コード